



東京新聞 八月二日夕刊

九州遊記 (五) 島田忠夫
木の葉驛で熊本へ向かうと、矢部川に電話をかけて、君を呼び出す。始の一寸誰れか見當が付かなかつたらしいが、私と解ると、是非矢部川へ来て呉れとせがむ。いま折よく久留米からSも来てゐると云ふ。そこで矢部川へ引返す。随分呑氣な話である。矢部川は大牟田から二驛許り門司の方へ戻る。都合五驛ばかり戻つたことにな

る。J君もS君も出迎へてゐた。矢部川から一里程へだてた清水の観音の山路を辿つてゐたのは、それから一時間の後である。路の下谷に水車がかかり梅が白く花をつけてゐるのあたりは佳かつた。空は曇つてゐたが、さう寒くはない。観音堂は先年火災に遭つたとかで堂宇がなかつた。三重の塔が徒らに深い松山の峽谷にそびえてゐる。茶屋で一行はやすむ。惜しいことに曇つて遠望がきかぬ。山腹の茶屋に、さち車とて松の丸木を細工し、さち車型どつて車をつけ、牽くやうにした玩具がある。草の

看護婦派出所の求めに應ず 平町南町 看護婦會 電話三〇七番

定一冊金五銭 五冊一圓二角 十冊一圓五角 二十冊一圓八角 五十冊一圓八角 一百冊一圓八角 以上送料別 郵購部 電話六三〇番

特別大興行
マキノ超特作!
月形龍之助、鈴木澄子主演
録實 四谷怪談
前後十五巻上巻
嵐長三郎、市川小文治、武井龍三、杉狂児、マキノ正博、荒木忍、松浦築枝、岡島艶子、山本禮三郎、河上君江助演
帝キネ作品
現代劇 新婦夫 全六巻
藤間林太郎、杉村チエ子主演
大帝キネ超特作連続時代劇
幕末秘譚
市川百々之助一人三役
第一篇 怪兇刃 暗の聲
四谷怪談上巻中御供物差し上げます
三日替り七日曜學生デー
マキノ 有聲座

常響文藝
七月雜詠
(三)
七色の夢
砕けしは印度模様のつぼならで哀れ憐なく夢なりしか
佗びしさを心に持ちていねし夜は割なく夢も白かりしかな
すぎし日は五女の夢さえ見しものを二女となりて夢は眞白し
手をとて取らむとすれば果敢なくする夢なりしか

店よき買 5丁目

夏の御用意
帽子
扇子
御用命は是非

月刊ヤ 電話三五三番

映畫と音樂の夕
一日二日兩夜六時半より開演
ユナイテッドアーチス提供
バビロン城の没落
神州天馬俠
肉體の道
責任解説 染井三郎
警城和洋音樂協會主演
平映畫アソシエーション提供
有聲座

謹告
小生永々休業罷仕候處今般左記ニ事務所ヲ設ケ從前通り辯護士ノ業務ニ從事致候
辯護士 新妻誠一
從五位
事務所 (石城郡平町橋樑小路一番地 電話一六一番 田町通り)

梅毒淋病 皮膚病專門婦人病
松村病院 町南平
電話七〇一

夏服
種々取揃へました
大勉強いたしました
小供洋服は壹圓より其他特別格安もの多數是非御出下さい
十字屋洋服店
平停車場前通り

大岡政談 第二篇
役二人一郎次傳内河大 輔大藤伊匠巨
伏見直江・賀川清・梅村蓉子・高木永二・伊藤みはる・印五郎・實川延一・助演
常時新時代に劇面を拓くはるあつた大活劇の第二篇に於て燃然り

謝恩興行 (第二週目)
例年の通 舊盆迄で
監督... 伊藤精一
浦邊象子、小泉嘉輔
凱旋少年
偉大と云ふより傑作と云ふより一言素敵、涙と笑の人情劇
澤村春子、中村吉十郎
鐵笛の義人
節子姫 曾津御成
昭和三年七月二十六日よりに四日に渉る松平節子姫が郷土會津若松に歸省せられ官民舉げて熱誠なる歓迎の實況を謹寫せるものなり
改定料金
普通席 金 十 錢
壹等席 金 三十 錢
特等席 金 五十 錢
土曜學生デー
高級 平 館
常設 平 館
八月二日ヨリ 寫眞差替 電 四六六

三名に斬り付け 返す刃で腹を切る

雷神祭の酒盛で泥酔し 大格闘の末に兇行

石城郡渡邊村大字田部部落
では三十一日午前十時ごろ
から雷神祭と稱して同村の
草野吉弘(三)方有志三十
名曾同じ酒盛をなしてゐた
ところ

正午ごろ 泥酔した

久保木重一(三)と大竹恒雄
(三)とが些細なことから口
論を始め大格闘を演じ居せ
た久保木安雄(三)伊藤吉五
郎(三)の兩名が仲裁に入つ
たところ前記草野吉弘は生
意氣な仲裁をするなど傍に

悪病除けの御禮祭り

尼子稻荷盛大に執行 四日宵祭—五日日本祭

昨報長橋町尼子稻荷神社は
四日宵祭、五日日本祭(三四
日と記せるは誤り)祭典を
執行する筈であるが昨年同
町が殆んど軒並びに種々の
病人が 瀕死に仲に
は隔離舎に收容さるる者も
ある等大恐惶を來せる際悪
病除け厄拂への臨時祭を執
行し山部神官神詞を奏上し
て神靈の加護を祈念せる處
今迄の病人は相次いで悉く
全治し其後は傳染病等全く
絶滅の姿で今日に至つた爲
の今更ながら靈顯あらたか
なるに感じ

磯濱小僧捕

前科が六犯

茨城県東茨城郡字堀割魚行
商兼吉事磯濱魚太郎(三)は
窃盜殺人傷害賭博等前科六
犯を有し一時は磯濱小僧と
て蛇蝎の如く恐れられた男
であるが、石城郡小名濱町
矢田部三次郎方に肥料商人
なりと稱して滞在中茨城縣
那賀郡國田村一本常次郎の

飽の中から現金百十圓を窃
取し去月廿九日午前八時同
所を逃走植田町に潜伏中を
平署柴崎刑事探知して出張
逮捕し餘罪ある見込みで取
調中

スポンヂ野球試合

平町十一チーム参加

平町野球聯盟主催の平町ス
ポンヂ野球大會は四五の兩
日A球場は磐城中等學校々庭
B球場は平第一小學校々庭
に分れ開催される筈である
が参加チームは十二に達し
大塚運動店より優勝旗マル
カ書店よりカツプの寄贈あ
る由にて當日は非常な活況
を呈すべく各對戦チーム左
記の如くである

A 球場(警中校長始球)

- (エンヂン俱樂部)
- (北辰白銀俱樂部)
- (平第一高等科)
- (平驛乗務クラブ)
- (平商業學校)
- (田町俱樂部)
- (B 球場(第一校長始球))
- (平鐵道俱樂部)
- (南町俱樂部)
- (二葉合野球隊)
- (平新聞記者團)
- (場土俱樂部)
- (平郵便局野球隊)



家庭欄

實母毒殺は嘘と判明

娘は評判の孝行者

石城郡山田村館五太郎娘み
どり(三)假名が實母うめ(三)
を毒殺せんとしたと茶碗に
毒薬を塗りつけたとのとに
植田署では取調べ中のとこ
ろ事實は全く案に相違し實
母うめは精神に異常を呈し
その積りでかゝらなければ
いけません、その方法は先
づ朝早く咲き出したばかり
の紫色の花の花粉を白い花
の雌蕊の上につけてその儘
花は糸を結んで虫類が這入
れぬやうにして置きます。
そしてそれが實となつたら
保存して置いて明年種子播
きするのであります、する

此分ならば政府初
期の方針通り、勞資の融金と
一定の補助で充分獨立なし
得るに至るであらうかと

職員不斷の努力で 加入者漸く自覺す

炭礦健保組合好成绩

常磐地方炭礦諸會社の健保
組合は一般労働者が親の心
子知らずのことはざるを其ま
ゝ休業給付で徒食しようど
する遊惰助長の具とされ其
趣旨目的 である相
援互助を裏切られ何れも維
持困難を唱へてゐたが近來
漸く好成绩を見せて來た昨
二年の平均組合總数は

- 磐城炭礦一〇一三六、日
- 立山三三〇八、入山探
- 炭三〇一六、大倉礦業二
- 〇八三、三井湯本一〇〇八
- 五、大日本高萩一〇〇二

最も患者

の多い三
月から八月に至る六ヶ月に
於て九人三分後の半年が六
人八分を示し當年は平均九
人六分に上り殊に患者過多
に苦しめられた磐城炭礦の
如き一般加入者の自覺を求

一昨日來の降雨で 各炭礦泥水に悩む

不動澤炭礦は休業

一昨日來の降雨で石城郡内
郷村白水不動澤炭礦にては
坑内の増水甚だしく作業に
困難を來し、排水唧筒を据
付けて居るが廿日間休業の
見込みである、また入山川
平坑第一斜坑にては一時に
増水した爲め百廿馬力及び
二百馬力の唧筒二台坑外に

飯場を全廢

福島炭礦で

昨日から直轄
石城郡赤井村福島炭礦では
從來六軒の飯場から坑夫を
出せしめてゐたが今回經
營上の採算から去月三十一
日限りこれを全廢し昨一日
から會社直轄となし從來の
飯場頭には手當として月収
六ヶ月分を支給した